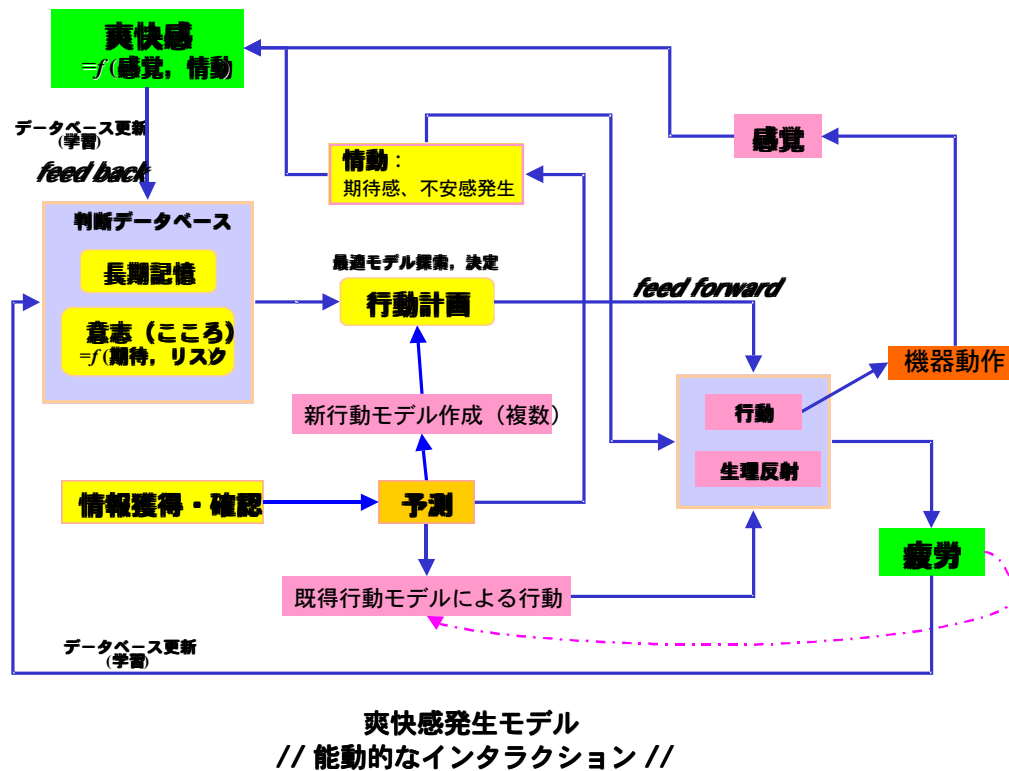


<66期成果>

- λ PASを用いて, *personal fit* というキーワードを具体的な研究テーマに落とし込むための基礎実験を実施
- λ 研究の方向性を提示 ⇒ 仮説: 「爽快感発生モデル」を提案
- λ 筋疲労に関しては, 表面筋電図による推定が可能であることを確認



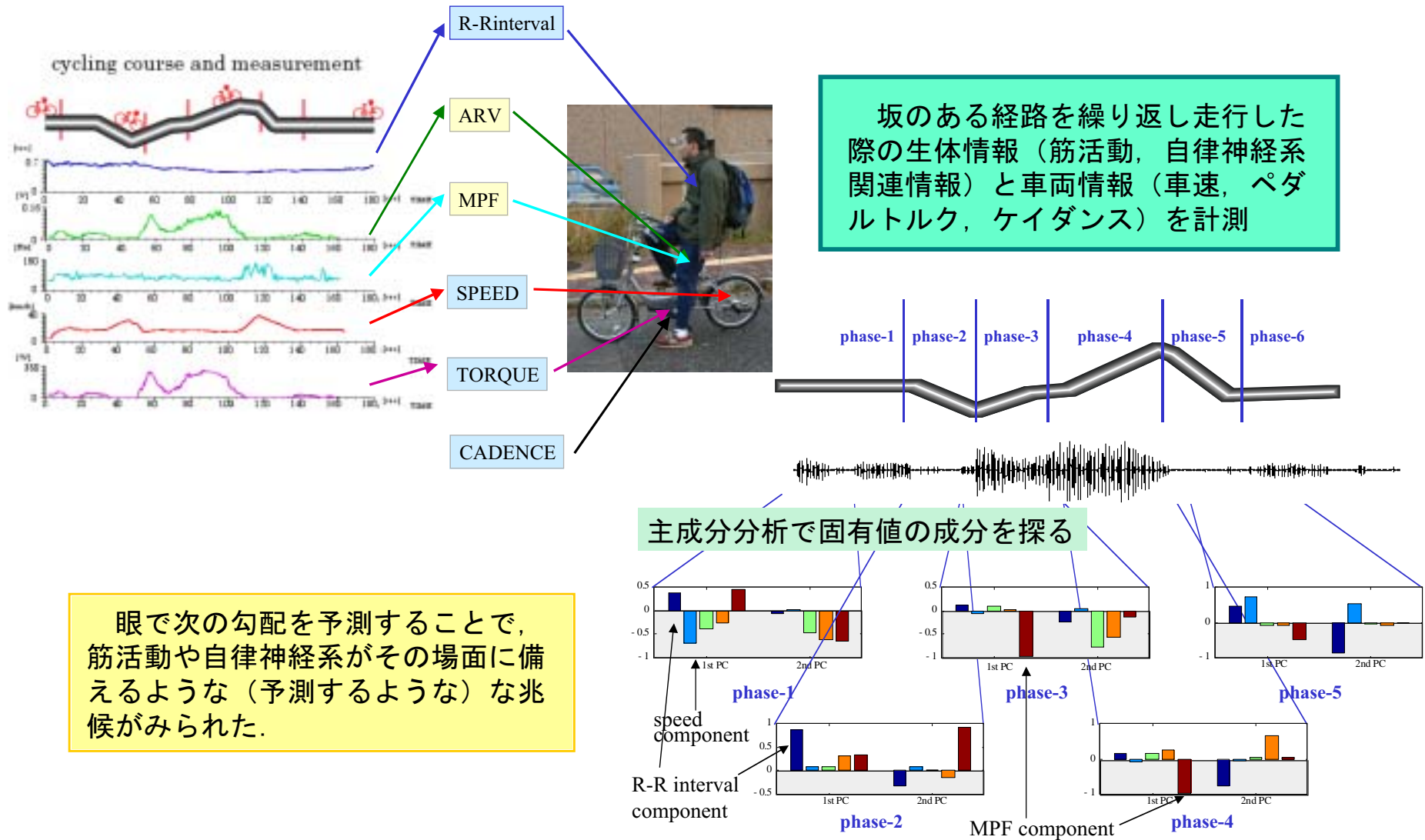
PASを運転する際には,

- ① 道路の勾配などを眼で見て (情報獲得・確認),
- ② 次の運動を“予測”することによって (予測),
- ③ 筋活動や自律神経系がその場面に備える (行動計画) ような動きをするようである。

これより, 移動体を対象としたマン・マシン系の研究においては, 単に刺激に対する行動を観察する“受動的なインタラクション”ではなく, ヒトは変化を“予測”して行動するという, 従来, 重要視されていなかったヒトの予測プロセスとそれに伴う情動に着目した, “**能動的なインタラクション**”の必要性を提案。

< 車両運転時の安全性と爽快感を実現するための新しいヒューマンインタフェースの開発 >

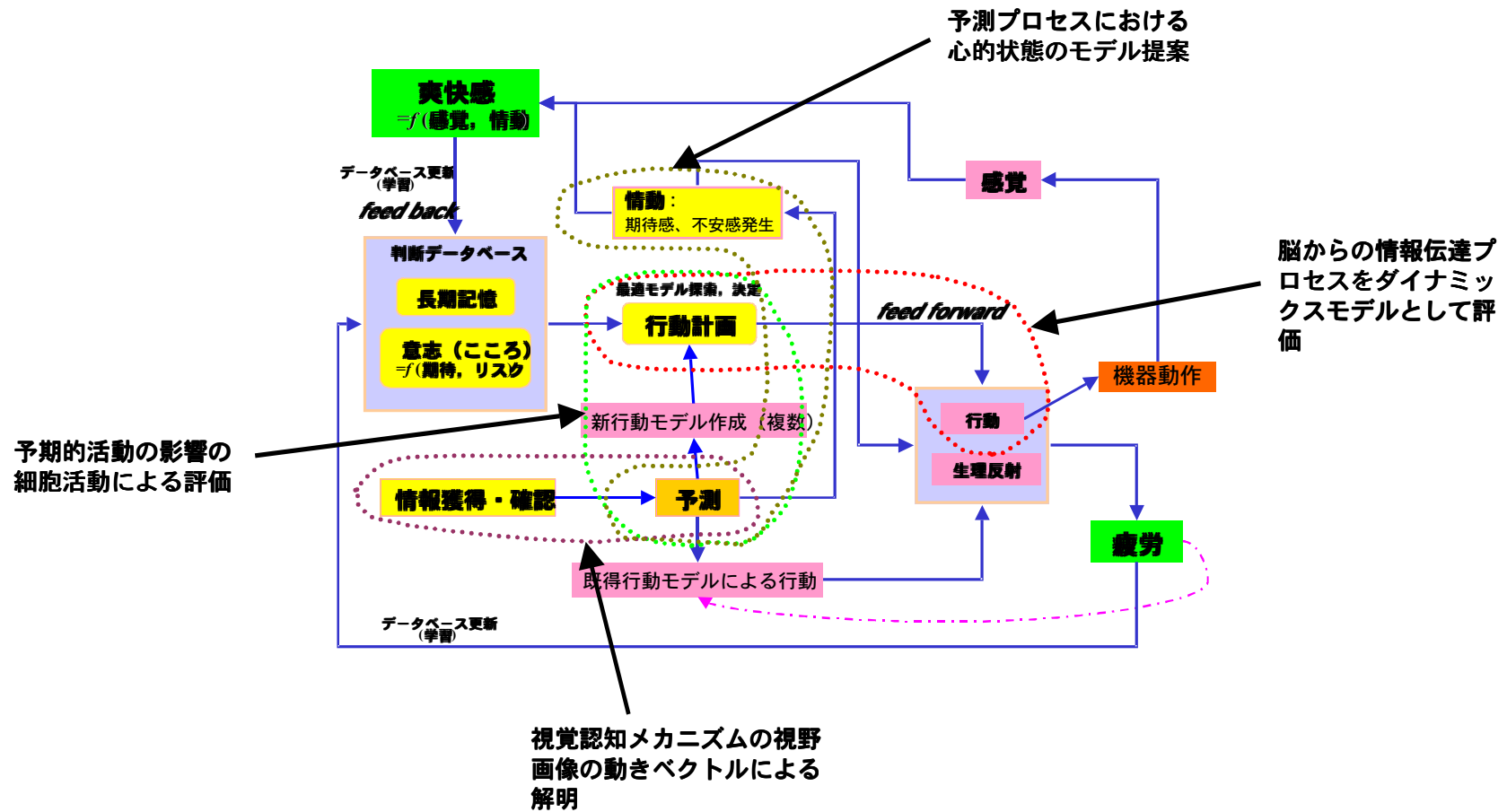
＜仮説の根拠となる実験結果一例＞



眼で次の勾配を予測することで、筋活動や自律神経系がその場面に備えるような（予測するような）な兆候がみられた。

<仮説を支える周辺研究例>

最近の、感覚、運動や情動メカニズムなどの研究成果を導入することにより、提案した仮説の実現が期待される



<車両運転時の安全性と爽快感を実現するための新しいヒューマンインタフェースの開発>